

衆議院 厚生労働委員会委員

三宅雪子 国会質問集 その1 (抜粋)

【社会保障の理念 支え合い、いたわり合う社会・公平な社会・皆に居場所のある社会】

<自民政権の社会保障政策を痛烈に批判>

三宅雪子 前政権によって、大幅な社会保障関係費の削減に続いて、障害者自立支援法、後期高齢者医療制度など思いやりのない政策が行われ、三位一体改革によって地方の財源が絞り込まれました。著しく地域の疲弊化が進み、そして労働者派遣法の実施などで非正規雇用者が約五百万人も増加し、確実にワーキングプアと呼ばれる貧困層を拡大させました。相対的貧困率が、残念ながら、先進国三十九国のうち、後ろの方から四番目となってしまっております。前政権については、社会保障に対する考え方というのが私どもと異なっていたのではないかと。つまり、経済成長と社会保障というのはなかなか両立しない、社会保障を充実させると経済成長のお荷物になるのではないかと、こういう発想が私は一部あったのではないかと考えています。



長妻国務大臣 本当に私もそれを心がけ、使命だと思って取り組んでおるわけでありまして。この胸ポケットにマニフェストを常に入れて取り組んでいるところでありまして、就任早々、母子加算を復活する、あるいは今度は父子の方に対する児童扶養手当もお支払いする、あるいは医療費についても十年ぶりのネットプラスにする等々、労働のあり方なども見直して、国民の皆様とお約束をしたマニフェストを実現するというのでこれからも取り組んでいきたいというふうに考えています。 22, 2, 19 (厚労委員会)

<障がい者総合福祉部会の今後について —障がい当事者も参加し意見を言えるスキームに>

三宅雪子 二月八日、五カ月半ぶりに開催されました障がい者総合福祉部会、私も参加しておりましたけれども、この日に、障害者自立支援法にかわる新しい法案の説明とともに、この部会の基本的な役目は終了したことになるという旨の説明が一方向的になされて、多くのメンバーの方々が大変失望されて、それは報道されたとおりでございます。この障がい者総合福祉部会のように、障害の当事者の方々から直接意見を聞くという場を設けることは大変すばらしいことだと思います。今後の障害者施策の推進に当たりまして、そうした議論の場に障害当事者も参加して、意見を言えるこのスキームをぜひ続けていただきたいということをお願い申し上げたいというふうに思います。

後藤副大臣 先生御指摘のとおり、直接、障害者の方が施策の審議にかかわることは重要だと思っています。そういう意味で、昨年八月に改正された障害者基本法においても、障害者政策委員会というのが一年以内にできることになっておりますが、その政策委員会の中でも、障害者の方、障害者の自立または社会参加に関する仕事に従事される方ということで、障害者の方も入った中で、さまざまな実情も踏まえた対応ができるように、最大限、委員の人事も含めて、バランスをとった形で対応していきたいというふうに考えております。 24, 3, 5 (予算委員会分科会・内閣)

<ホームレス対策のための、知的障がい者の比率も含めて正確な実態把握を>

三宅雪子 先日、何げなく新聞を見ておりましたら、資料一にございますように、何と、ホームレスの知的障害者が三四という驚くべき数字が目飛び込んでまいりました。実は、この件は私自身、大変気になっていたことでしたので、すぐに厚生労働省の方にお聞きしたところ、資料三に基づいて説明を受けたのですが、厚労省の統計では、ホームレスの中で知的障害者はおよそ一割ということでした。まずは、ホームレスの知的障害者に対する調査の方法につきまして、妥当なのかどうか、福祉分野で私が尊敬してやまない山井政務官にぜひお聞きしたいと思います。昨今、ネットカフェ難民など、いわゆるホームレスが新しい形態に変質しているのではないかとこの可能性も考えられます。お伺いしたところ、野外で生活している人をホームレスというふうに呼ぶということも教えていただきました。 22, 3, 31 (厚労委員会)

<介護拠点の施設整備に伴う介護士労働者の需要の増加に向けて・介護報酬引き上げの実施を迫る>

三宅雪子 全国どこでも、介護の必要な御高齢者に良質な介護サービスを提供するという政策の目的のもとで、その具体策として、療養病床とグループホームなどの介護拠点の施設整備を三年間で十六万人分ふやし、介護労働者の賃金を月額約四万円引き上げることとございました。こうしたことを私どもも挙げさせていただいているわけですが、この財政難の中、こういったことを実行することは大変なことだと思っております。このスケジュール等をできたらお聞かせいただけますでしょうか。

山井大臣政務官 三宅委員にお答え申し上げます。まず、四万円の賃上げであります。四年以内にマニフェストの約束どおり、賃金四万円引き上げを目指していきたいと考えております。 22, 3, 31 (厚労委員会)

<教育委員会の障がい者雇用の遅れを指摘>

三宅雪子 企業は法定雇用率一・八割ということですが、国の公的機関の障害者の法定雇用率は二・一割でございます。九七・四割の機関で法定雇用率を達成しておりますが、都道府県等の教育委員会は法定雇用率は二・〇割ですが、資料二をごらんいただきますと、都道府県の教育委員会が一・七割、そして市町村が一・八割となっております。

最も障害者教育に力を入れていただかなくてはならない教育機関が、どうしてこんなに数字が低いのでしょうか。二・〇割を満たすためにいかなる努力をされているのか、お聞かせください。 22, 2, 19 (厚労委員会)

【医療の高度化と公平化】

<重粒子線治療に保険適用を・・・最先端医療で多くのがん患者を救いたい>

三宅雪子 私は群馬県で国会議員にならさせていただいたわけですが、このことに大変興味を感じたきっかけが、群馬大学で行われています重粒子線治療でございまして、これは大変すごいものだというようなうわさを聞きまして、早速見学に行かせていただきました。そして、いろいろ御説明を聞きました。まだ日本では三カ所のみ導入と聞いておりますが、大変な最先端医療だという話はいろいろと聞かされております。年間六百人から八百人の治療が可能と聞いております。臨床を重ねて、よい結果が得られれば、ぜひ保険適用をして多くのがん患者を救っていただきたい、そのように願っております。 22, 3, 31 (厚労委員会)

<医療クラウド・全国共通の電子カルテ、医療データベースの推進により医療の地域格差解消>

三宅雪子 私は医療クラウドの問題に大変関心がございませぬ。現在の医療費は三十四兆円を超えておりますけれども、医療費のこれ以上の上昇を防ぐためには、日本じゅうの病院が全部共通の電子カルテ、そして医療データベースにつながるということがいずれば必要になってくるというふうに思っております。そのことが医療の費用の構造を変えて、また遠隔地の患者さん、島に住んでいる患者さんもうらっしゃると思ひます、そういった方々の来院の必要性が緩和されて、大変利便性が高くなってくるのではないかとこのように思っておりますが、この医療クラウドについて、副大臣はどのようにお考えでしょうか。



平岡副大臣 総務省としては、これまでの取り組みの成果を踏まえまして、来年度以降も引き続き関係省庁と連携して、安心、安全かつ広域的な医療健康情報流通基盤、いわゆる医療クラウドの普及、推進に取り組んでまいりたいと考えているところであります。23、2、25（予算委員会分科会・総務）

【地域コミュニティの再生と地域格差のない福祉】

<所在不明高齢者問題・・・省庁のはざ間で高齢者を独りぼっちにしない社会>

三宅雪子 実は、平成十七年、荒川区で同様の問題がございました。しかし、このときに厚生労働省では、これを特別なケースと考えて十分な調査をしていなかったわけでございます。私は、このときにもっともっと真剣に取り組んでいたら、このような現在の所在不明高齢者問題という日本の社会の深刻な現実を象徴する問題が早く解決したのではないかと残念でなりません。・・・

今回の問題は、年金は厚生労働省、そして住民基本台帳は総務省、戸籍は法務省、身元不明の方の扱いは警察庁と、多くの省庁にまたがっていて、縦割り行政の弊害が指摘されるところではございますが、五大国会議等々でそれは積極的に問題解決に向けて話し合いを続けていただきたいと思ひます。百歳を超えて生きていらっしゃる方の所在確認ができない今の社会、本当に悲しいことだと思ひます。高齢者の社会的孤立をこれ以上招かないために、新しい地域づくり、コミュニティの再生について真剣に考えていかなければいけないときが来たと思ひます。22、9、8（厚労委員会）

<犯罪を犯した障害者の社会復帰を支援する地域生活定着支援センターをすべての都道府県に>

三宅雪子 地域生活定着支援センターというものができて、整備を新たに進めているように聞いております。ただ、念ながら、まだ十一カ所までしかでき上がっていないというふうに聞いております。この地域生活定着支援センターを全国的にもっと整備する必要があると思ひますが、こうした障害者の方が刑務所にいるときから相談に乗ってくれる窓口、本当に心強いことだと思ひます。そうした窓口が全国各所にできることになりましたら、これは大変素晴らしいことで、犯罪の防止にもつながってくると思ひますが、大臣の所見をお聞かせください。22、2、19（厚労委員会）

——この質問がきっかけとなり急速に進み現在ではすべての都道府県に設置されている

<地方主権の推進策・一括交付金が福祉の地域格差を生じることがないように国が責任を>

三宅雪子 まず最初に、地域主権についてでございます。平成二十三年度は一括交付金五千二百二十億円が都道府県に計上されました。これは片山大臣の強力なリーダーシップのたまものだと思ひます。

その一方、地域間格差が決して出てきてはいけない分野があると私は思っております。その最たるものが福祉の分野だと思ひますけれども、私は、生まれた場所、住んでいる場所で、地域サービス、福祉サービスに大きな違いが出てきてしまっているというふうに思っております。そういう意味では、一括交付金といながらも、国はある程度は関与していくことが必要なのではないかと、そのように思っておりますが、大臣のお考えを教えてください。

片山国務大臣 それはおっしゃるとおりであります。自由に任せてと言うとちょっと言い過ぎかもしれませんが、自治体の自由な財政 運営に任せていい分野も当然多くありますけれども、やはり国として、最低限これだけは確保していただきたいというももあります。例えば義務教育でありますとか、それから福祉にもその分野は多いと思ひます。・・・23、2、25（予算委員会分科会・総務）



【社会全体で子育てする・・・子供を暖かく見守る社会】

<子供の所在不明問題・・・正確な実態把握と適切な対策を社会全体で>

三宅雪子 昨年、高齢者の所在不明問題というのが大きく取り上げられました。これは記憶に新しいところでございます。そこから、死体遺棄、年金詐欺といった犯罪が幾つも発覚いたしました。同時に、戸籍事務、そして住民基本台帳の盲点なども明らかになったわけでございます。子ども所在不明問題は、この委員会でも取り上げられましたが、いまだ具体的な解決策のないまま現在に至っているように私は感じております。（政府が発表する子供の所在不明者の人数について）私もその点は大変違和感を持っておりまして、東京が二百人、大阪が百五十三人という中で、全くゼロという都道府県がまだあることは御承知おきのとおりでございます。来年はさらに詳しいデータが出てくることを期待申し上げたいと思ひます。また一方で、日本は申請主義なので、家で出産しようが、病院で出産しようが、出生届が出ない限り捕捉できないという問題があるわけでございます。これは、死亡届においての所在不明高齢者の問題につきましてもそうございました。そうすると、出生届が出ない限り捕捉できないという問題があるわけでございますけれども、生まれた後の子どもの安否確認はどの機関がどのように責任を持ってやっていこうとお考えでしょうか。病院、警察当局と連携するなど、また、母子手帳の活用を図るなど、安否確認をすることはお考えいただけますでしょうか。23、10、25（青少年問題特別委員会）

<子供への精神薬の投与は慎重であるべきです>

三宅雪子 国立精神・神経医療研究センターの調査によりますと、自閉症などと診断された就学前の子どもたちのおよそ二八%に何かしらの精神薬を投与しているという驚くべきデータがございませぬ。今の段階では、効果があるかもしれない、しかしないかもしれない、そういった段階で、発達途中の、特に二歳以上のお子様、全く脳に影響がないのかどうかということをお私は大変心配をしております。その観点から、安易な投与は今のところは慎重であるべきではないかというふうに考えております。23、10、25（青少年問題特別委員会）



<不登校、引きこもりを大きな社会問題ととらえ対策が必要、将来の無年金、無保険者を増やさないためにも>

三宅雪子 ひきこもりの方については、一説には七十万人から百万人、多いと三百万人とも昨今は言われております。・・・

この人たちの多くは就労しないまま年齢を重ねていって、お世話している親御さんいつかは亡くなるわけでございます。そうしたときに、無年金、無保険となってしまう危惧も大変あるというふうに思っておりますが、その際には当然大きな社会問題となるわけで、政府として、どのような事態を想定して、来るべき危機に対してどのような対策を考えていらっしゃいますでしょうか。蓮舫大臣、よろしくお願ひします。

ひきこもりが不登校の延長線上にあると以前は言われておりました。昨今は、リストラ等々あり、必ずしもそうではない部分もあるとはいえ、不登校段階での対策は非常に重要であることは変わりがない事実であるというふうに思っております。23、10、25（青少年問題特別委員会）

衆議院 厚生労働委員会委員

三宅雪子 国会質問集 その2 (抜粋)

【子どもの命を守り、安全な社会を築くのが政治の最も大事な仕事です】

<放射能から子供を守るために母乳の検査と対策を万全に>

三宅雪子 お母さんがやはり一番心配されているのは、お子さんたちへの影響だというふうに思っております。特に、生後間もない、現在授乳中のお子さんを持たれるお母さんたちにとりましては、自分の与えている母乳が果たして安全であるかどうか、そういったことは大変深刻であるというふうに思います。そこでお伺いいたします。政府として、母乳の検査は、発災後三カ月で二回行ったと承知しておりますが、その際に検出された数値につきまして改めてお教えいただけますでしょうか。



(答弁に対し) どんな少ない数値であれ、お子さんを持つお母様方の心配は本当に尽きないと思います。調査の方もこれで終わらせることなく、引き続き、お母さんたちが心配しないで済む施策をお願い申し上げたいというふうに思います。23, 10, 25 (青少年)



<子供への精神薬投与については国が規制を設けてより慎重に>

三宅雪子 私は、子供に対して安易に精神薬が処方されるということに対して大変強い懸念を持っているわけでございます。早期介入、早期支援につきましては、慎重論と推進論、この二つがあるというふうに聞いているわけなんですけれども、厚生労働省は現在いずれの立場でいらっしゃるのか、牧副大臣にお伺いいたします。

(答弁に対し)。どちらかという慎重論というふうな受けとめさせていただきました。……

国立精神・神経医療研究センター病院の調べでは、小児神経専門医などに対するアンケートで回答があった中で、何と七三%の医師が薬物療法を用いており、そのうちの三九%は就学前のお子さんに対してということとございました。まだ成長途中のお子さんに精神薬を投与することには、私自身は大変抵抗を感じております。子供に対する薬の使用量につきましては、ぜひ規制を設けることが必要なのではないかということを一御提言させていただきたいというふうに思います。24, 3, 7 (厚労)

<発達障害児童などの精神医療を担う医師の不足を指摘、状況の改善を要望>

三宅雪子 発達障害などのお子様を持つ多くのお母様方が本当に困っていらっしゃいます。児童思春期精神医療というそうなんですけれども、この分野の医師は現在どのくらいいらっしゃるのでしょうか。また、今後、こういった医師をふやしていく施策はとられているのでしょうか。お伺いいたします。

牧副大臣 現在、児童思春期の精神医療を担う全ての医師の数というわけではないんですけれども、主な学会の認定医としては、日本児童青年精神医学会認定医という方が百七十四名、日本小児精神神経学会認定医が二百十三名となっております。

三宅雪子 お聞きして、改めて、本当に少ないんだなということを感じました。ぜひ、全国のお母様方のために、地域間格差をなくし、何カ月も待たないと診療を受けられない、そういった状況をぜひ改善していただけたらというふうに思います。24, 3, 7 (厚労)

<受刑者の出所後の子供引き取りは、あくまでも子供にとっての家庭環境を一番に>

三宅雪子 服役した受刑者のお子さんにつきまして大変心配になります。服役した保護者が出所した際、例えば児童施設に預けられている子ども、里子に出されているお子さんの引き渡しというのはどうやって判断されているのか気になります。こういったスキームになっているのか、厚生労働省の方からお聞かせください。

石井政府参考人 現在、お答え申し上げます。施設入所や里親委託の措置を解除し、お子さんを家庭復帰させるに当たりましては、まず、施設長あるいは里親の方の御意見を十分に聞くことが大切でございます。十分に聞いた上で、子どもの意向も聞いてみる。そういったようなことで、家庭環境などの実情を十分把握して、慎重に判断することとされております。また、措置を解除した後も、保護者や主任児童委員などの地域の関係者と調整をし、必要な援助を行っている、こういうスキームとなっております。23, 10, 25 (青少年)

【年間3万人を超す自殺、原因の実態を把握して官民挙げて自殺対策を】

<学校内の出来事が原因とされる事件では、学校側が誠意をもって丁寧な説明を>

三宅雪子 私の地元であります群馬県の桐生市におきまして、十二歳の少女がみずからとうとい命を絶ちました。くしくも、一昨日の二十三日に一周忌を迎えたわけでございます。親御さんや御家族の皆様のお気持ちを考えますと大変胸が痛むわけでございますけれども、この事件は今司法の場に移っていますのでこれ以上の言及は避けたい。この群馬県の件にかかわらず、いじめなど学校内の出来事が原因とされる事件につきまして、親御さんが学校側の説明に納得していない、そういった例が多く見受けられます。これは、学校側の誠意に対するいわば不信感みたいなものがあるのではないかと思うんですけれども、親御さんへの丁寧な説明等が肝要というふうに思います。23, 10, 25 (青少年)

<大津市教育委員会への不信感が社会問題に・第三者委員会での真相解明を提案>



三宅雪子 大津で起きたいじめとされています中学二年生の自殺について、大臣にお聞きしたいというふうに思います。……このことは、一つの市、県というところを超えて、本当に全国の保護者の方の心配事項と今なっているわけでございます。……そういった中で、きちっとした調査が今後進められるというふうには私は思いません。また、思われていないというふうに思います。……今後このことをこれだけ大きくなって心配している保護者の方に対してどのようにしていくのか、例えば第三者委員会みたいなものを考えているのか、教えていただけますでしょうか。

平野 (博) 閣務大臣 この案件につきましては、……文科省としても状況はつかんでおりました。その間、今、三宅さんがおっしゃるような、いろいろな意味で訴訟が起こっており、こういう経過もございます。……私としては、何としましても、今までのやり方が本当にいいのかどうか、このことも含めて、しっかり見直さなければならぬ、かように実は思っております。六月のときにも、被害者の方もおられるわけでございますので、被害者の方の意向も十分踏まえて、中立的な立場での第三者委員会をしっかりとつくり確認をするようにということもその通知の中に記載をさせていただいております。それが本当にやれていたのかどうかということは、事後になりますが、今、状況をしっかりとつかんでいきたい、かように思っております。24, 7, 12 (予算委員会) ————この質問の後、第三者委員会の設置が決まりました。

<自殺対策、「いのちの電話」への国の助成、インターネット検索から自殺相談窓口へ・国の対策の遅れを指摘>



三宅雪子 昨年二〇一一年の自殺者なんですけれども、速報値であります、残念ながら、三年連続で三万人を切る事ができませんでした。さまざまな自殺対策の施策の一つに、いのちの電話というものが大変広く一般に知られているところでございますけれども、今回、私も、内閣府の方から、このいのちの電話は民間のボランティアということを知りまして、大変驚きました。……

浸透している民間のいのちの電話に対して、何か助成はされているのでしょうか。……

また、いのちの電話につきましては、最近大変つながりにくいという話があります。人手不足が原因ではないかということですが、先ほど助成のお話が村木統括官からもございました。さらなる支援が必要だと思います。ぜひこれもお願い申し上げたいと思います。……

三月一日からインターネット検索サービス会社九社が、自殺にかかわる用語を打ち込むと、最初に自殺相談窓口の電話番号を表示するなどの取り組みを始めております。こうした自殺対策につきましては、民間での取り組みがどうしても若干先行しているように見えてしまうんですが、国として、今後新しい取り組みなどは考えていらっしゃるのでしょうか24, 3, 5 (予算・内閣)

<向精神薬と自殺の関係を含め自殺の原因を究明し、有効な自殺対策を要望>

三宅雪子 次に、自殺と向精神薬の関係につきまして御質問いたします。一九九九年のSSRI導入後、自殺がふえたのではないかと指摘が最近取り沙汰されております。このことが事実かどうかは別として、内閣府の中に置かれております有識者による自殺対策推進会議で、このテーマについて議論はされましたでしょうか。……

ありとあらゆる可能性を排除せずに、ぜひ議論をして、有効な自殺対策をぜひ見つけていただきたいと思いますというふうに思います。24, 3, 5 (予算・内閣)

【支え合う社会・助け合う社会・・・地域コミュニティの基盤を強固に】

<地域コミュニティで重要な役割を担う消防団員の減少を指摘>

三宅雪子 地域社会のコミュニティを守る上でも大切な役割を消防団は担っていると思っておりますが、残念ながら、配付しました資料によりますとおり、消防団の数がピーク時の二百九万人から、……現在は八十八万五千三百九十四人と大幅に減っているんですね。半分以下となっております。私自身の経験からいいますと、こういった地域のコミュニティにかかわりますと大変地域の皆様とも親しくなりますし、鳩山総理がおっしゃっていた家族のコミュニティ、地域のコミュニティ、会社のコミュニティ、そういった意味では、これから大変重要になってくるのではというふうに思います。私も、微力ながら、この消防団員の経験を生かして、何か人数をふやしていくようなアイデアを出す機会がありましたら、ぜひ参加をさせていただきたい、そのようにお願い申し上げます。22, 2, 25 (予算委員会分科会・総務)

三宅雪子 近年、犯罪の多様化、そして自然災害の発生によりまして、地域に密着をして活動している消防団員の存在は本当にますます重要になってくるというふうに思っております。しかし、消防庁が目標としていた百万人はおろか、八十九万人を切るというような状態で、昭和二七年ぐら이가ピークなんですけれども、ピークの二百九万人に比べて大変激減しているというのが現状でございます。……
こういった消防団員の減少を食い止めるためにはどのようなことをしたらいいと大臣はお思いでしょうか。

片山国務大臣 調べてみますと、消防団員の報酬というものが非常に低位に置かれている。そのことがやはり、だからというわけではありませんけれども、少し消防団になろうかというモチベーションを下げていてのではないかとということも気になっておりまして、これから自治体に対して、市町村長さんなどに対して、消防団の団員の皆さんの処遇というものをもう少し改めて考え直すことが必要ではないですかということも啓発をさせていただいておるところでございます。23, 2, 25 (予算委員会分科会・総務)

<地域を支える民生委員の仕事のやりやすい環境と待遇の改善を>

三宅雪子 特にこの所在不明高齢者では、たくさんボランティアの民生委員の方が走り回って活躍をされていらっしゃる。特に、定年前に何とかこの問題を解決したいと奔走された足立区の民生委員さんの勇気には心から敬意を表する次第でございます。差し当たって、地域社会のコミュニティの再生がそう簡単でない以上、超高齢化社会での民生委員の方々のお仕事はますます重要になってくると思っております。この民生委員の方々適切な個人情報を取り扱えるようにすることや、また、待遇改善、民生委員の皆さんが活動しやすい環境の整備を進めていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。



山井大臣政務官 大変重要な御質問をありがとうございます。これについては、やはり民生委員の活動に必要な個人情報が地方自治体から、特に最近提供されていない等、地域における要援護者の状況の把握や支援が困難となってきております。そこで、今までからも、三宅委員からも厚生労働省に何度も要望、御指摘がございましたので、このたび厚生労働省としては、民生委員に対する市町村の情報提供状況に関するサンプル調査を行うことに決めました。22, 9, 8 (厚労委員会)

<我々自身のモラルも問われている・・・救急車の出動回数から>

三宅雪子 消防庁のデータによりますと、実際に病院に運んでみると、救急車で搬送の必要はなかった方というのが五〇％ほどに上るといふふうに聞いております。この数を減らしていかないと、本当の重症の患者の方、そして大規模災害が起きた際に影響が出てきて困ってしまうことになるというふうに思います。23, 2, 25 (予算委員会分科会・総務)

<サイコテストとは？>

三宅雪子 実は、きのうまでの質問は入れる予定ではなかったんですが、急遽入れさせていただいた質問でございます。私が大変驚きましたのは、このホームページに掲載をされておりました宣伝文句なんです。精神的に病んだ人や頭がおかしくなった人を発見して、問題行動やトラブル、クレーム被害、うつ病などから、メンタルヘルズ被害からあなたの会社を守ります、こんな文言だったんです。ちなみに、現在、この文言は変更されております。ですから、サイコテストという名前は残っていますが、文言は変更されています。……企業が面接をしてその適性を見る、私も当然このことを否定するものではありません。しかし、それが時に行き過ぎたものになってしまうこともあるように思います。ですから、私としては、こうした業者に対する監督をぜひお願いしたい、そういった思いで、先週の火曜日、お話をさせていただいたわけでございます。24, 7, 25 (厚労委員会)

衆議院 厚生労働委員会委員

三宅雪子 国会質問集 その3 (抜粋)



【野党議員として予算委員会で野田総理に直接質問 この模様はNHKで生中継されました】

<総理の政治姿勢を厳しく追及——消費増税前のシロアリ退治は終わったのか？>

三宅雪子 この2009年の夏は、私も含め、誰しもが総理と同じ熱い思いを持って、同じ気持ちだったというふうに思います。しかし、私から見て、あのときの演説をされた総理から大分変わられたように感じる次第でございます。

税金に群がっているシロアリを退治しなければいけない。一匹も今シロアリがいらないとお思いでしょうか。あのとき総理は、並行してやるというふうにはおっしゃっていません。退治するとおっしゃったんです。そして、消費税は上げないとおっしゃったんです。もう一匹もシロアリはいらないとお思いでしょうか。24、7、12 (予算委員会)



<総理が命を懸けるのは消費増税ではなく被災地の復興復旧であるべきです>

三宅雪子 それは、総理が命をかけて臨んでいる消費増税などの話の議論の最中です。その最中に、大事な来客があるとおっしゃって中座をされました。……皆さんは、よほど偉い外国の要人に会うと思って、次の日の首相動静を見てびっくり。何と一回生議員と、参議院議員全員をほったらかして会っていた。

そういったことで、消費増税に命をかけるとおっしゃっている総理、優先順位が違っていませんか。復興復旧に命をかけるというのが普通じゃないですか。ですから、大増税内閣であってはいけないというふうに思います。被災地の、現地の大臣が笑っていらっしゃいますけれども、この内閣は復興復旧内閣であるべきだというふうに思っております。24、7、12 (予算委員会)

<原発再稼働についての野田総理の説明に国民は納得していません>

三宅雪子 抗議の方々は人数が毎週毎週ふえている。総理の地元船橋でもデモが起きている。そして、ほかの大臣の地元でもデモが起きている。この抗議の声は、時間がたつにつれて、おさまるところか、どんどんと大きくなっています。なぜでしょうか。これは、総理の御説明に国民が納得していないからなんです。24、7、12 (予算委員会)

【中央集権・縦割り行政の国の仕組みの大転換を】

<地方主権国家へ歴史的転換を起せるか政権が問われています>

三宅雪子 地域の疲弊が保守地盤を突き崩して、そして政権交代が起きたと私は思っております。この政権が歴史に名を残して、二〇〇九年が一八六八年、一九四五年に匹敵する年であったと言えるかどうかは、日本が地域主権国家へと変貌できるかどうかにかかっていると思うのですが、いかがでしょうか。22、2、25 (予算委員会分科会・総務)

<一括交付金制度の実行と国と地方の公務員の適正な配置を>

三宅雪子 そこで、私は選挙の際に、地域の活性化のためにはひもつき補助金制度をやめて一括交付金制度にしなくてはならない、それは政権交代によってしかできないと言ってきたのですが、原口大臣は平成二十三年度からひもつき補助金を一括交付金化するとはっきりと断言をされていらっしゃいますただ、一つ気になることがございまして、一括交付金制度が実施されるようになりますと、補助金行政のもとで配置されてきました出先機関の必要性がなくなってしまうように思うのですが、そうなりますと、現在の二十一万人の国家公務員の方がどうなるのか、こちらが私は気になっております。前政権時代には、県に移行するような指摘もあったようですが、大臣はどのようにお考えでしょうか。

原口国務大臣 今国の出先機関は、平成二十一年度末の定員は十九・三万人なんですが、これを全部地方に移すというのは現実的じゃないと思います。今まで依存と分配の政治の中にとっぴりとつかって、そのマシンだったものは私は原則廃止だと。ただ、生首を切ったり、あるいは労働行政のように、労働基準監督局とかハローワークまで、それを地方に移管するということは少しやり過ぎなんだと思います。要するに、人間の尊厳をしっかりと保障する部分、この部分は中央政府が、あるいは中央政府としての責務の部分、これはしっかりと残しながらも、原則廃止に向けた工程をつかっていきたい、22、2、25 (予算委員会分科会・総務)

<大臣のリーダーシップで省庁の壁を越えて、各省の連携を>

三宅雪子 蓮舫大臣にお伺いしたいと思います。本日、これまで取り上げた問題は、いずれも青少年にまつわる、多くの省庁にまたがる問題であったわけでございます。青少年を担当される大臣として、この省庁の壁をぜひ越えて、大臣のリーダーシップで問題の解決を図っていただきたいというふうに思います。大臣の今後の取り組みについてお考えをお聞かせください。

蓮舫国務大臣 三宅委員のきょうの質問を伺っておりまして、まさに、不登校あるいはひきこもり、あるいはいじめ、あるいは乳児への薬物投与、本当に子どもたちを大切に社会全体として育てていかなければいけないときに、多岐にわたる問題がある種低年齢化しているということを改めて今痛感させられたところでございます。各省庁から適切に答弁はいただきました。文科省、厚生省、内閣府、まさにここが縦割りになってしまうと、せっかく事業であるとか予算を伴った施策を国が地方とともにやっていくときにも、結果がなかなか伴わないということになってしまいますので、この連携はまさに私の役割だと思っております。23、10、25 (青少年問題特別委員会)

<内閣府は調整官庁として縦割り行政の壁を乗り越えて各省庁と連携を>

三宅雪子 本日、私は初めて内閣府の質問をさせていただくわけなんですけれども、正直言いまして大変驚いたことがございます。内閣府は調整官庁だということは理解しておりましたけれども、幾つかの質問につきまして内閣府にお聞きすると、それはほかの省庁と言われて、その省庁に行くと、それは内閣府と言われて、言葉は悪いんですけども、いわばたらい回しといった状況が多々ございました。

縦割り行政の省庁の壁を痛感したわけなんですけれども、特に、この後質問します自殺対策などは、しっかりと各省庁連携して取り組まなければならない問題だというふうに思っております。そういった意味で、ぜひこの点を改善していただきたい、そのことをまずお願い申し上げたいというふうに思います。24、3、5 (予算委員会分科会・内閣)

<TPP 関連の政府広報の公平性について官房長官と論戦>

三宅雪子 年間五十四億といいますが大変多額の広告費ですので、やはりしっかりとした基準を設けて、・・・執行していただきたいというふうに思います。TPPなど、現在、大変党内で大きく議論が分かれている問題もあります。党内はもちろんのことなんですけれども、国民の皆さん、そして野党の皆さんの誤解を生じないように、今後ともぜひ対処をお願い申し上げたいというふうに思います。

藤村国務大臣 今、多分、委員の頭にあるのが、一つは社会保障・税一体改革関連の政府広報、それからもう一つは今おっしゃったTPP、この二つかと思います。・・・まだTPPをどうするかというのは議論の最中ではございますが、一体何が問題か、どういう議論をしているのかなどはやはり政府広報で取り上げていくべき対象だ、そのように考えたところではあります。

三宅雪子 私はもちろん、政府広報自体を否定するものではございませんので、ぜひ、今のお考えをお伺いいたしまして、公平な形で実施していただくことをお願い申し上げます、私の藤村官房長官への御質問を終わらせていただきたいと思っております。24、3、5（予算委員会分科会・内閣）



【雇用問題にも積極的に発言・・・目指すは「労働憲章」制定】

<法改正・有期雇用5年で無期雇用へ・・・すでに長期にわたる有期契約労働者に法のはざ間のない救済措置を>

三宅雪子 今回の労働契約法改正案は、有期雇用から無期雇用、この道を切り開くという意味で、一步にはなったというふうに私も思います。しかしながらも、この五年が三年ではだめだったのか、こういった思いも多くの方がお持ちであるわけでございます。そうして、こうした法律の施行の際には、どうしてもはざまというものができてしまいます。現時点で、有期労働者のうちに、この五年を超えていらっしゃる方は全国で何人ぐらいいらっしゃるのでしょうか。

(約360万人という答弁に対し) それから法律の施行までの時間というものもあるというふうに思います。それから先の五年間というものもあります。ですから、場合によっては、通算十一年以上、無期への転換というのがかなわない方も出てきてしまうのではないかと懸念を私は持っているんですが、その辺はいかがなんでしょうか。

小宮山国務大臣 結局、今回、一定の期間たたなければ何もしないというのではなくて、改正法を施行するときに、既に有期労働契約で長く雇われている労働者も含めて無期労働契約への転換が円滑に進みますように、一つは、有期契約労働者や無期転換後の労働者のステップアップに取り組む事業主を支援するという、・・・必要な政策対応を検討して、可能なところから実施をしていきたいというふうに考えています。

三宅雪子 大臣の御答弁で、いろいろな支援の形を考えていらっしゃるというお話でした。そしてまた、助成金なども含めて、今後、この件は課題として引き続きぜひ御検討をいただきたいというふうに思います。24、7、25（厚労委員会）

<さらに無期雇用から正社員へ・・・ステップアップへの取り組みを>

三宅雪子 その一方で、無期雇用が進んでいくと、その中で、・・・こういった方々を正社員にする道といいますが、正社員を希望したときに、例えば試験のようなものを設けるとか、そういったことを含めて、正社員にするような形というのも今後は考えるような御方針はあるのでしょうか。

政府答弁 有期から無期に転換した後、さらに正社員にステップアップできないかという希望も当然出てくるわけでございますので、企業のそうしたお取り組みが進みますように、いろいろな助成措置を含めた支援措置についても、考えていきたいというふうに考えております。24、7、25（厚労委員会）

<雇用調整助成金の事後提出特例を被災地以外の県への適用を要請>

三宅雪子 この制度はもとも、一カ月前に休業についての計画書を申し込むということが前提となっているわけですが、今回の東日本大震災におきましては、特例措置で、被災九県におきましては事後提出でいいということになり、このこと自体は大変歓迎すべきことでございますけれども、逆に、三月におきましては突然の計画停電等々がありまして、被災九県のみならず、全国を見まして、多大な影響を受けた企業が多くあるわけでございます。ほかの県に対しては、この特例措置は適用されないのでしょうか。

小宮山国務大臣 しかし、休業計画の事後提出につきましては、休業が実際に行われたかどうかを事後的に確認することが困難なこと、既に実施された休業に対して助成金を支給しても、そのことで雇用維持を促進する効果が望めない、こうしたことから、これ以上対象を拡大することは適切ではないというふうに考えています。

三宅雪子 ただ、今回の災害におきましては、被災地以外の県にも大きな打撃を与えていることを踏まえて、今後ぜひ御検討をお願いしたいというふうに思います。23、4、22（厚労委員会）

<被災地の高齢者や障害者の雇用確保に配慮を>

三宅雪子 不景気や今回のような災害による企業業績悪化の場合、やはり最初に影響がありますのは、高齢者や障害者などの社会的な弱者と言われる方々ではないかというのが私は心配になります。そのような方々への配慮といいますが、対処をどのように副大臣はお考えでしょうか。

小宮山国務大臣 今おっしゃいますように、やはりこういうときは弱い人たちのところにしわ寄せが来るということで、障害者の皆さんについては、雇用継続を図るため、全国のハローワークに設置しました震災特別相談窓口に加えて、地域障害者職業センターに特別相談窓口を設置いたしました。・・・これからも、震災の影響で特に弱い立場の方にしわ寄せが来ないように、しっかりと力を尽くしていきたいと思っています。23、4、22（厚労委員会）

<求職者支援制度、職業訓練・・・ニーズに合わせたコース設定を要望>

三宅雪子 私も実際に職業訓練の現場を視察させていただきました。生徒さんが大変熱心に受講されている姿に私も心打たれ、感心した次第でございます。この職業訓練は、コースによりまして倍率が異なる、希望のコースを受けられないケースもあるということも耳にしております。職業訓練コースは国の認定でございますけれども、例えばITなどは人気のコースだというふうに向っているんですが、例えばこのITのコースの定員をふやすですとか講座数をふやすなどですか、そういった柔軟な対応は考えられませんか。23、4、22（厚労委員会）

<求職者支援制度を維持するために、訓練奨励金、訓練・生活支援給付金の不正受給には厳格に対処を>

三宅雪子 奨励金と訓練・生活支援給付の不正という、あってはならないことが起きたわけで、せっかくの制度を悪用されたのが本当に残念なことだというふうに思っております。

小林大臣政務官 本件につきましては、不正受給額に加えて、不正があったコース以降に開始をされたすべてのコースについて支給された訓練奨励金などの合計八千二百九十万円の返還を求めるとともに、刑事告訴をする方向で警察と今相談を進めております。

また、同様の事案がほかにも発生していないかについて、五百九十六コース、九千三百四十五人分を対象に全国調査を実施したところでございます。引き続き事実関係の確認を進めて、不正の事実が確定したものについては、同様に厳正に対処したいと考えております。23、4、22（厚労委員会）

